

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 3 月 11 日
東京電力株式会社

< 1 . 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/11 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	14.5	105.2 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	23.9	4.26 kPa g	A系： 0.07 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	22.2	0.21 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.08 vol%

* : 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2 . 使用済燃料プールの状況 > (3/11 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.0
2号機	循環冷却システム	運転中	9.9
3号機	循環冷却システム	運転中	19.3
4号機	循環冷却システム	運転中	13.3

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。
- ・H26/2/26～ 3号機使用済燃料プール代替冷却系の二次系冷却塔のろ過水による散布水停止の影響調査を実施中 (プール冷却は継続中)。
- ・H26/3/10 11:13～18:17 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、当該系循環冷却設備弁の交換等を行うため、停止。なお、起動後の運転状態について異常はなく、使用済燃料プール水温度は停止時の 13.0℃から 13.3℃まで上昇したが、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題なかった。
- 3/11 9:45～10:45 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、当該系循環冷却設備弁の交換等を行うため、停止。なお、起動後の運転状態について異常はなく、使用済燃料プール水温度は停止時の 13.1℃から変化なし。

< 3 . タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	3/8 10:05 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 (プロセス主建屋)	3/10 9:51 ~ 移送実施中

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (3/11 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	運転中	停止中 ^{*1}	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器 (H I C) 交換等を適宜実施。

< 5 . その他 >

・H26/1/29～ 凍結管を設置するための削孔については、掘りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。

・H26/2/24 6号機残留熱除去系A系(非常時熱負荷運転中)の系統水の一部が圧力抑制室に流れていることを確認。漏えい箇所を調査したところ、残留熱除去系ポンプ吸込ライン(A系、B系共通ライン)に設置されている安全弁から系統水が流れ込んでいる可能性が高いことを確認。

3/11 3/11～3/17 で実施する予定の当該安全弁点検の準備作業として、配管内の水抜きを行っていたところ、同日 12:22 頃、6号機原子炉建屋地下2階南西側サンプ(*)エリアで漏えい検知器が動作したことから、現場確認を行い、当該エリア床面に水たまりを発見。

12:28 頃に配管内の水を送っていたサンプから、同じエリアにある別のサンプへ水を送っていた仮設ポンプを停止したことにより、漏えいが停止したことを確認。

漏えいの原因については、仮設ポンプで水を送っていた移送ホースの先端がサンプから外れて床面に水が漏れたものと推定。

漏えい範囲は2箇所(約3m×約2m×深さ約5cm、約 1.5m×約1m×深さ約2cm)で、漏えい量については漏えい範囲から約 330Lと推定。また、漏えい水の分析結果は以下の通り。

・コバルト 60 : 2.4×10^4 Bq/L

・マンガン 54 : 6.7×10^2 Bq/L

(全ガンマ : 2.5×10^4 Bq/L)

漏えい水の放射エネルギー(ガンマ核種)は約 8.3×10^6 Bq。

引き続き漏えい状況および原因等を調査する。

(*)サンプ:各建屋内の機器(ポンプ・配管等)からの排水・漏えい水等を処理するために一時貯蔵するための水槽。

・H26/3/11～ 4号機原子炉建屋の健全性確認のための点検(平成25年度4回目(計8回目))を実施中。

・H26/3/11 海側遮水壁工事(港湾内)における遮水壁内側の埋め立てにより、2-3号機間に設置したシルトフェンスを撤去。

・H26/3/12～3/20 現在待機状態となっている、非常用窒素ガス分離装置の本格点検を実施予定。

※ 当該点検にあたっては、特定原子力施設の保安第1編第25条に定める運転上の制限を満足できない状態となるが、特定原子力施設の保安第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に作業を実施する予定。

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・H25/12/10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。
- ・H26/3/7 6:28 H4東エリアA1タンクにおいて、水位高高警報が発生。当該タンク上部の天板からタンク実水位を確認したところ、漏えい等の異常がないことを確認。タンクの水位トレンドも安定。なお、警報については発生と同時にクリア（スパイク状に一瞬発生）していることから、一過性のものと推定。

<タンクエリアパトロール実績（3/10）>

- ・高線量当量率箇所（線による70 μ m線量当量率）は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は3/11 0:00時点で約8,826m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<移送関係>

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1,2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1,2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔(No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H26/1/30～ 地下貯水槽 No.1～3 における貯水槽内部の残水について、H1 東エリアタンクへの移送を適宜実施。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上